

乙 第 号

伊藤 高広 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

報告番号	乙 第 号	氏 名	伊藤 高広
論文審査担当者	委員長	教 授	吉治 仁志
	委 員	教 授	中島 祥介
	委 員	教 授	吉川 公彦
	(指導教員)		

主論文

Correlation between the ABC classification and radiological findings for assessing gastric cancer risk

胃がんリスク評価における ABC 分類と X 線所見の関連性について

Takahiro Itoh, Miho Saito, Toshiko Hirai, Nagaaki Marugami,
Aki Marugami, Junko Takahama, Toshihiro Tanaka, Kimihiko
Kichikawa

Japanese Journal of Radiology

第 33 巻 636-644 頁

2015 年 10 月発行

論文審査の要旨

本研究の目的は、胃癌検診において検体検査から胃癌リスクを予測して層別化するABC法によるリスク分類を導入するにあたり胃X線検査が相補的な役割を担えるか否かを検討することにある。

ABCリスク分類と胃X線検査を同時に行った318名の職域検診受診者を対象としている。受診者をA群：ヘリコバクターピロリ菌(以下Hp)感染、萎縮度判定(ペプシノゲン検査;以下PG)が共に陰性、B群はHp陽性・PG陰性、C群はPG陽性と定義し、B群およびC群をnon-A群と設定している。A群の中でHp抗体価が3.0U/mL未満の群と、高リスク群が混入しやすいとされる3.0U/mL以上の群を区別して、それぞれA-1、A-2群と設定している。検討内容として、各群間で胃X線所見4項目について評価し、X線学的胃癌リスク判定とABC分類の結果を照合し解析を加えている。

その結果、A-1群とnon-A群について胃X線所見の皺襞分布、皺襞幅(3.9mm以上)、皺襞性状(辺縁不整)、胃小区(粗糙)のオッズ比がいずれも高く、2因子以上を認める場合をX線学的胃癌リスクと規定すると、感度90.3%、特異度94.7%、正診率93.3%であることを示した。また、ABC判定では低リスク群と判定されるA-2群のうちX線判定を加えると69.2%が胃癌リスク群となり、A群の中にはA-2群と言ったリスク群が混在することを明らかにした。

以上の結果から、ABC法と胃X線検査は相関するものの乖離例も見られ、胃癌検診では両者の併用が望ましいことが明らかとなった。本研究は、今後の胃癌検診のあり方を示しており、学位に値する有意義な研究と評価される。

参 考 論 文

1. 胃がんX線検診へのヘリコバクター・ピロリ感染に関する問診導入の初期成績

伊藤高広，吉川公彦，中川泰二，大石 元

日本消化器がん検診学会雑誌 50: 325-331, 2012

2. 胃がんX線検診における新しい診断基準・指示区分導入の試み

伊藤高広，吉川公彦，平井都始子，藤井久男，中川泰二，赤羽たけみ，
福居健一，大石 元，武輪 恵，吉本正伸，中西攝子

日本消化器がん検診学会雑誌 49: 493-502, 2011

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに放射線医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

平成 27 年 11 月 10 日

学位審査委員長

消化器病態・内分泌機能制御医学

教 授 吉治 仁志

学位審査委員

消化器機能制御・移植医学

教 授 中島 祥介

学位審査委員（指導教員）

画像診断・低侵襲治療学

教 授 吉川 公彦